

採点基準 英語

配点表			
大問	配点合計	小問等	配点
I	60	1	12
		2	10
		3	12
		4	14
		5	3×4
II	60	1	16
		2	6
		3	15
		4	8 (完答)
		5	15
III	40	1	5×2
		2	15×2
IV	40	(A)	20
		(B)	20
大問計	200	小問計	200

大問 I, II 設問形式別採点原則

〔和訳形式〕

- (1) 基本的にはすべての部分的誤りと語句の無視は、個別に指定が無い限り $[-2]$ 。
- (2) 個別に指定許容された箇所以外のカタカナ訳は不可で 一語につき $[-2]$ とする。
- (3) 和訳という指示に従わず英単語をそのまま書いているものは、一語につき $[-2]$ とする。
- (4) 日本語の誤字は、別の意味にとられてしまうケースは $[-1]$ で、他は許容。
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 区分された単位で意味が成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点。
- (7) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

〔内容説明形式〕

- (1) 基本的に下記の(3)(5)以外のすべての誤りは、個別に指定が無い限り $[-2]$
- (2) 語句の意味を誤ったものは個別に指定が無い限り $[-2]$
- (3) 採点枠内が部分的減点が難しいレベルで誤っているものは、配分点をすべて引く。
- (4) 個別に指定されたものと全訳で使われたものを除いてはカタカナ訳は不可で $[-2]$ 。
- (5) 日本語の誤字等は、同音の別の意味にとられてしまうケースは $[-1]$ で、他は不問
- (6) 各配点区分において、区分点を越えた減点を行わない。
- (7) 二重の減点を避ける必要がある場合、必須要素と無関係の部分からとった不要要素は無視し、必須要素の有無と正誤のみで採点。
- (8) 解答文の結びの巧拙は、減点対象としない。
- (9) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

大問 I

問 1 説明問題(12点)

【解答例】

健康を気にかける人々が、彼らが食べる食事の一口や、行動や、心臓の鼓動に至るまでの情報をアプリやデバイスに記録することで、それらから得られる無限とも思われる健康に関する情報が、彼らが健康への過度の不安にさいなまれる文化への要因となりうる。

【採点要素・配点】

要素①

these boundless data の具体例 (5点)

= every morsel that passes their lips / every step they take / every beat of their hearts / their sleep cycles / and their fitness progress

- ・上記5項目中3項目に触れていれば可。残りは「など」で可。その場合「など」の欠如 ⇒ (-1)
- ・触れている項目数が2項目以下 ⇒ (-2)
- ・具体例が全くないものは ⇒ (-5)

要素②

apps websites and wearables to monitor への言及 (3点)

- ・手段のうち1つが具体化されていれば、他は「など」で可。その場合「など」の欠如は (-1)
- ・apps は「アプリ」などカタカナ表記であっても許容。、apps website を連語としても許容
- ・wearable はカタカナ表記可
- ・各具体例の明らかな誤り ⇒ 各 (-1)
- ・具体例皆無で「最新の機器 (手段)」とまとめたもの ⇒ (-2)
- ・monitor は「監視する」「調べる」「知る」「分析する」など、カタカナでの「モニターする」も含め認める。明らかなミスと欠如 ⇒ (-1)

要素③

we have health insights we've never had before への言及 (2点)

- ・health insights のカタカナ訳は不可

要素④

can contribute to a culture of health anxiety への言及 (2点)

- ・contribute toの欠如 ⇒ (-1) *canは反映されていなくても可。「できる」と可能の意味で訳したものは (-1)
*contributeを「良い結果をもたらす」の意味で訳したものは (-1)
- ・culture の欠如 ⇒ (-1)
- ・health anxietyの欠如 ⇒ (-2)

問2 下線部和訳(10点)

【解答例】

これらの追跡装置がますます高機能になっている、まさにそのときに、それらに対する抵抗—精神衛生から消費者のプライバシーに至る理由のために—は高まっている。

【採点区分・配点】

部分①

Even as these trackers grow more and more sophisticated, (5点)

(これらの追跡装置がますます高機能になっている、まさにそのときに、)

- (1) even as の誤訳 ⇒ (-1)
- (2) tracker のカタカナ訳は不可
- (3) grow は「成長する」も可
- (4) sophisticated は「洗練され」「精巧に」も可
- (5) more and more を単に「より」も可

部分②

the pushback against them — for reasons ranging from mental health to consumer privacy — is mounting. (5点)

(それらに対する抵抗—精神衛生から消費者のプライバシーに至る理由のために—は高まっている)

- (1) pushback ⇒ 「拒否 (の感情)」「反発」は可。「ゆりもどし」は不可
- (2) them の指す対象の誤認 ⇒ (-1)
- (3) health は「健康 (状態)」も可
- (4) ダッシュを訳に使っても可。カッコで囲んでの訳出も可。

問3 説明問題 (12点)

【解答例】

体重をそのまま表示するのではなく、3週間分の計量データを統合して、使用者たちが体重を増やしているのか、維持しているのか、あるいは減らしているのかを、行動と関係付けられるパターンとして伝える。

【採点要素・配点】

要素① 〈通常の器具の機能〉

Shapa doesn't spit out your weight when you step on it の該当部。 (3点)

- (1) spit out は out の語感が出ていれば、「吐き出す」「算出する」なども許容
- (2) your, you を「あなた」として答えに入れても可
- (3) Shapa の表記は、固有名詞だと分かった解答であれば許容

要素② 〈Shapaの機能〉

it aggregates three weeks of weigh-in data,の該当部 (3点)

- (1) aggregateの誤訳 ⇒ (-1)
- (2) three-weeksは「ある[一定の]期間」でも可
- (3) weigh-in dataは「体重を計ったデータ」のことだと解釈できるものはすべて許容

要素③ 〈Shapaの機能〉

and uses a color-coded system to tell users if they're gaining pounds, holding steady or losing weight.の該当部 (4点)

- (1) color-coded system の有無は不問
- (2) gaining pounds, holding steady, losing weight の欠落 (または誤訳) ⇒各 (-2)
- (3) tell は「示す」「教える」「伝える」も可

要素④ 〈Shapaはその使用者に何を示すか〉

The idea, says co-founder and behavioral scientist Dan Ariely, is to shift the focus away from incremental weight changes, and toward more meaningful patterns.の該当部 (2点)

(この考えは増加する体重の変化から、より意味のあるパターンへと焦点を向けるためだと、共同設立者であり行動科学者のダン・アリエリーは言う)

- (1) meaningful は「意味のある」と直訳で述べても可
- (2) 上記下線部以外の内容はあってもなくても可

問4 下線部和訳(14点)

【解答例】

「ほとんどいかなる状況においても、私はカロリー計測を勧めない」と彼女は言う。「究極的には、目標はカロリーを計測しないといけないということでは全然なく、内面から発せられる声に従うことができるようになることです」

【採点区分・配点】

部分①

“Under almost no circumstances would I recommend calorie counting,” she says. (7点)

(「ほとんどいかなる状況においても[の下でも], 私はカロリー計測を勧めない」と彼女は言う。)

- (1) 倒置の誤認による SVの混乱 ⇒ (-3)
- (2) counting を「計算」「算出」と訳出しても可
- (3) 引用符(「」, “ ”)を訳に入れていない ⇒ (-1)

部分②

“Ultimately, the goal is not to need to count calories at all, but to be able to follow inner voice.” (7点)
(「究極[最終]的には、目標はカロリーを計測しないといけないということでは全然なく、内面から発せられる声に従うことができるようになる)ことです」)

- (1) at all の訳漏れ ⇒ (-1)
- (2) countを「カウントする」と訳出 ⇒可
- (3) not ~ but ...の関連を誤認 ⇒ (-2)
- (4) inner voice を「内なる声」と訳出 ⇒可

大問II

問1 説明問題 (16点)

【解答例】

新技術の登場に伴う監視からプライバシーを守る必要があるという彼らの主張は、技術的進歩によって新たな監視手段が生まれ自由な発言が委縮しつつある我々の時代においても、重要な意味を持っているから。

※点線部はなくても可

【参考英文とポイント】

- (a) カメラの登場が would put citizens at risk from constant surveillance (人々を常に監視される危険にさらすのではないかと) という懸念が内容の中心
- (b) 上記(a)の懸念を基に new laws are sometimes needed to keep up (対応するために新たな法が必要とされることがある) ということ、記事の筆者たちは認識していたと述べられている。
- (c) 第1段落は citizens needed a right “to be let alone” (人々は「1人にしておかれる」権利を必要としている) と結ばれている。
- (x) 第2段落では、Without privacy laws ..., we would today live in a world of total surveillance at all times (プライバシーを守る法がなければ今日我々は恒常的に全面的に監視される世界に住んでいることになるだろう) と述べられており、(a)(b) と対応している。続く(y) で実は監視が現代でも問題になっていることがより明らかになる。
- (y) 第2段落では、In free societies we're never “let alone” either (自由社会でも我々は決して「1人にしておいて」もらえない) と述べられており、(c) と対応している。1890年当時のウォーレンとブランドアイスの懸念が現代でも消え去っていないことを示唆している。後続文ではより明確に the “data gold rush” has opened up new forms of potential surveillance from democratic governments, too (「データゴールドラッシュ」が民主政府でも新たな形で監視が行われる可能性の扉を開いてしまった) と述べられていく。

【採点要素・配点】

要素①

「新技術による監視からプライバシーを守ること」 (9点)

- (1) 「新技術」の該当内容の欠如 ⇒ (−2) ※「カメラ」と述べていても可
- (2) 「監視」の該当内容の欠如 ⇒ (−3) ※「見張られている」などの言いかえも可
- (3) 「プライバシー」の該当内容の欠如 ⇒ (−3) ※「個人生活」等の言いかえも可
- (4) 「守る[保護する]」の該当内容の欠如 ⇒ (−2)

要素②

「新たな監視手段がある現代でも重要である」 (7点)

- (1) 「新たな監視手段」の該当内容の欠如 ⇒ (−2)
※ネットやスマートホームなどの具体例の有無は不問
※具体例の一部のみで、かつ「など」が欠如 (−1)
- (2) 「現代でも」の該当内容の欠如 ⇒ (−2)
- (3) **要素①**との関連要素(「重要」)が述べられていない ⇒ (−2)

問3 和訳問題 (15点)

【解答例】

人々が侮辱的で不快な言葉を発したことにより逮捕され起訴されたという記事を、他の多くの人々と同様に私も不安をつのらせつつ読んでいる。場合によっては、諜報機関はもはや人の身辺を嗅ぎ回る必要がないのだ。テクノロジー企業に出向いて必要なことをそこから入手するだけですむのだ。

【採点区分・配点】

部分①

I, like many others, read with increasing alarm stories of people being arrested and prosecuted for saying things that are offensive and nasty. (8点)

- (1) with increasing alarm
 - ・「増大中の～を伴って」などぎこちない訳 ⇒ (−1)
 - ・ alarmの許容例 ⇒ 「不安」「驚き」「恐れ」
⇒ 「警報」「警告」は (−1)
- (2) stories 以下が read の目的語だと分かっていない (=alarm と stories をつなげて読んだもの) ⇒ (−2)
- (3) for は「ために」の訳も可

部分②

In some cases intelligence agencies don't need to spy on you anymore; they can simply go to the technology companies and get out of them what they need. (7点)

- (1) intelligence agencies の誤訳は2語で1つのミスとして(-1)とする
- (2) spy on の許容例 ⇒ 「(密かに) 調べる」「探る」「探り出す」「尾行する」
「監視する」「スパイする」
- (3) anymore は「これ以上」「もう」なども可
- (4) what they need が get の目的語だと捉えられていない(out of themを挿入的に理解できていない)
⇒ (-2)

問5 和訳問題 (15点)

【解答例】

しかし公開討論会で発せられた若くて認識不足だった頃のひとつの愚かな発言が未来永劫存在し続け、蒸し返されてまったく当時のままに再現されるのなら、何も言わぬ方が安全だという結論に達する人々がどんどん増えていくだろう。

【採点区分・配点】

部分①

But when one idiotic remark made on a forum when you were young and ill-informed exists forever, and can be dug up and republished exactly as it was, (10点)

- (1) one の訳漏れ ⇒ (-1)
- (2) made on a forum が形容詞句となっていない ⇒ (-2)
- (3) when you were young and ill-informed が made にかかっている ⇒ (-2)
- (4) be dug upの許容例 ⇒ 「掘り出される」「探し出される」「再発見される」
- (5) republishedの許容例 ⇒ 「再び公にされる」「復刻される」 ※「再発行」は(-1)
- (6) as it was の誤訳 ⇒ (-2)

部分②

more and more people will conclude it is safer just to never say anything. (5点)

- (1) 「より多くの人々が~するだろう」という直訳も可
- (2) justの訳出は不要
※「ちょうど」と訳出 ⇒ (-1)
※「しないだけの方が」など only の語感で訳出 ⇒ 許容

大問Ⅲ

【減点の原則】

- (1) スペル、大文字小文字、記号の誤り ⇒ 一律 -1
- (2) 単語の誤り ⇒ -1
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ -1
- (4) 文法的誤り ⇒ -2
- (5) 英文として不成立で部分的減点が難しい場合は、「句・節」単位での一括減点 -4
- (6) 原文からの語句レベルの引用は可。但し、文単位で一語一句すべて丸写しは「文写し×」とし 7点ずつ減点。
- (7) 設問と無関係な解答は0点。
- (8) 語数制限無視 ⇒ 0点

問2 (1) 英語による意見陳述 (15点)

【採点要領】

- (a) the huge costs of installing a number of the warning systems に関する論になっていなければ (-15)
 - (b) alternative idea (解答例の Instead 以下) が欠けている ⇒ (-10)
 - (c) いきなり costs への alternative idea に入り、前とのつながりがおかしい ⇒ (-2)
- ※ Our idea on the huge costs などの書き出しなら代案だけでもOK。
- (d) alternative idea の内容が前半とかみ合わない ⇒ (-4)

問2 (2) 英語による意見陳述 (15点)

【採点要領】

- (a) a smartphone is an essential tool for our daily life. に関する論になっていなければ (-15)
 - (b) alternative idea (解答例の Instead 以下) が欠けている ⇒ (-10)
 - (c) いきなり alternative idea の内容から入っても可
 - (d) alternative idea の内容が解答内容の前半とかみ合わない ⇒ (-4)
- ※与えられ書き出しと無関係なら (-15)

大問Ⅳ

【減点の原則】

- (1) スペル、大文字小文字、記号の誤り ⇒ 一律 -1
- (2) 単語熟語の誤り ⇒ -2
※ 3語以上からなる熟語のうち1語だけのミス ⇒ -1
(例) on account of を on account in
※ 訳漏れは一つにつき -2
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ -1
- (4) 文法的誤り ⇒ -2
- (5) 区分された部分全体が英文として成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を 0点

(A) 和文英訳 (20点)

【解答例①】

It is reported that several doctors gave their patients placebos and found that about thirty percent of the patients were influenced by the substances. People in the past believed that magic could heal them. From the viewpoint of modern science, that might well have been a kind of placebo effect, too.

【解答例②】

According to a medical report, placebos were effective for about 30% of the patients who were given them by their doctors. In the past, people had faith in the therapeutic effects of magic. That might also be categorized as a placebo effect from the standpoint of modern science.

※ placeboの複数形は placebos / placeboes どちらも可

【採点区分・配点】

部分①

との報告がある (2点)

- (1) There is/was a/the report that S V ... 型 ⇒ 許容
※ I (have) read a/the report that says/said SV も許容
- (2) 解答例②の medical report は単に report でも可

部分②

医者たちが患者に偽薬を飲ませたところ約30%にその効果があった (8点)

- (1) patients が単数形 ⇒ (-1)
- (2) 「飲ませたところ」は when で表しても可
- (3) 「飲ませる」を made/had O do の形にしたもの
※made は (-1)
※force O to do など「強制」を明示するものは (-1)
※prescribeを使ったものは許容

- (4) 「飲む」を drink ⇒ (－1)
- (5) 「約」の欠如 ⇒ (－1)
- (6) 「効果があった」の許容例
 ※主語が patients ⇒ got[became] well/better , recovered
 ※主語が placebos ⇒ had (good) effects on , made the patients feel better
 ↑単数形も可
- (7) 「偽薬」に placebo を使わず false medicine/pills など ⇒ (－2)

部分③

昔の人々は魔法による治療に信頼を置いていた (5点)

- (1) 「昔の人」を old people , old age people など ⇒ (－2)
- (2) 「治療」の許容例 ⇒ treatment , medical treatment , cure , healing , remedy , therapy
- (3) 「に信頼を置く」の許容例 ⇒ believe in , trust in , put/lay/place a/one's trust in , rely on

部分④

が、そのことも現代科学の目で見ればプラシーボ効果の一種かもしれない。 (5点)

- (1) 「も」の欠如 ⇒ (－2)
- (2) 「現代」の許容例 ⇒ contemporary , today's , of today
- (3) 「の目で見れば」の許容例 ⇒ in the eyes of , in (the) light of , in the sight of ,
- (4) a kind of の後の語形のミス ⇒ (－1)

(B) 和文英訳 (20点)

【解答例①】

In general, the placebo effect is said to be triggered by a person's belief in the benefit of the treatment and his or her expectations of feeling better. Psychological research has also shown that the psychology of a patient is closely related to the course of a disease.

【解答例②】

It is generally said that the placebo effect is caused when a person believes that the treatment is effective and expects that he or she will get better. Research by psychologists has also shown that the course of a disease largely depends on the psychology of the patient.

【採点区分・配点】

部分①

一般的に (2点)

- (1) 許容例 ⇒ generally, generally speaking, typically, normally, commonly, regularly
(2) 「言われる」「引き起こされる」どちらににかかる位置で述べても可
(例) is generally said / the placebo effect is generally caused

部分②

プラシーボ効果は人が治療の効果を信頼することと良くなると期待することによって引き起こされるという (10点)

- (1) 「と言われる」は they say, people say, doctors/scientists say など可
※ 書き出しに Generally speaking を使い, speaking, say が重複した場合は (-1)
(2) 「人」は単複どちらも可 ※「患者」「被検者」への言いかえも可
(3) 「治療」の許容例 ⇒ (A)部分③(2)に準じる
(4) 「信頼する」の許容例 ⇒ (A)部分③(3)に準じる
(5) 「期待する」の許容例 ⇒ expect/hope that節, expect/hope/want/wish to do
(6) 「引き起こされる」の許容例 ⇒ develop, appear など「発現する」の意を持つ語も可
⇒ become effective, come into effect など「効力表す」意を持つ語句も可

部分③

心理学での研究もまた、患者の心理状態が病気の進行に大きく関係していると示してきた。
(10点)

- (1) 「研究」の許容例 ⇒ study, research, investigation, work
※ research, work の可算名詞扱いは (-1)
(2) 「心理学での」は psychological, psychological, in psychology どれも可
(3) 「もまた」の欠如 ⇒ (-2)

- (4) 「患者」は単複どちらでも可
- (5) 「心理状態」の「心理」は mind(s), mental を使っても可
- (6) 「示してきた」の時制 ⇒ 現在完了時制以外は(－1)
- (7) 「大きく関係している」の許容例
 ⇒ have much to do with ... , be much/very/ highly related to ... , relate to very much ,
 be much/very/highly associated with ... , have much relation to/with
 have much association with , have a close connection to/with
- (8) 「病気」の許容例 ⇒ disease (UC 共に可) , illness (UC 共に可) ,
 sickness (UC 共に可)
- (9) 「進行」の許容例 ⇒ development (UC 共に可) , progression (UC 共に可)
 advance (UC 共に可)